Dec 20 1988 宮城県壮年テニス連盟
会　報　第 6 号

３年間を振り返って

委員長　神　吉　寛　一

宮城県壮年テニス連盟は、上山先生が中心となって呼びかけられて、昭和６１年４月２０日青葉山公園庭球場における発会式をもってスタートしました。以後順調に発展し、本年１０月には会員が男性１６９名、女性８５名、あわせて２５４名になり、そのうち家族会員は１０６名であります。女性のなかにはテニスをはじめるためにこの連盟に参加された方もおられるようです。硬式テニス人口が極めて少なかった戦前や昭和２０年代を思い返しますと全く隔世の感があります。　このように発展した理由は、日本人の平均寿命が著しく伸びたために、壮年、熟年に達しさらに定年、老年後も十分にテニスを楽しめる体力をもつ人々が増加した結果かと思います。また、テニスは男女を問わず年をとってもいつまでもプレーが楽しめるスポーツであることも幸いしています。これからは、福祉は弱者のためのみならず、健康な高齢者に対する体力維持という積極的な福祉が重要であることを痛感する次第です。実際、コートでテニスを楽しんでおられる会員の方々をみますと、わが連盟においては「老人」という言葉や文字は全く必要がないように思えます。３年間運営に当たった委員の一人として、お世話のしがいがあったとよろこんでおります。

昭和６３年１０月３０日から１１月２日にわたって、第１回全国健康福祉祭ひょうご大会が神戸市を中心に、高齢者のためのスポーツ祭典として開催され、宮城県代表としてわが連盟の方々も参加されました。私達の連盟の趣旨が時を同じくして全国レベルにおいても採り上げられたことに意を強くしています。

壮年テニス連盟がこのように順調に発展できた陰には、運営に当たってこられた委員幹事諸氏の大変な熱意と努力があったことを申し上げたいと思います。運営委員会では、前回の企画の成果についての反省をふまえ、夜おそくまで検討を重ねて次の企画を練り、全ての方々の満足を得るよう細心の注意を払っており、また会員が多くなると事務的処理も労苦が多くなるものであります。

もう一つ会員の皆さんにご紹介したいことがあります。去る９月に会員の高橋龍夫氏が、全日本ベテランテニス選手権大会の50～54才の部で見事優勝されました。決勝戦ではかってのデ杯選手の石黒氏を破ったそうです。わが会員のなかに日本一のプレーヤーがいることに敬意を表する次第です。

最後に、宮城県壮年テニス連盟が今後さらに発展を重ね、健康都市仙台を中心として宮城県の高齢者の健康増進と会員の親睦に一役も二役も担う会になりますよう心より祈って止みません。

お詫びの言葉など

運営委員　中　村　克　弘

早いもので、もう三年過ぎたかなというのが実感です。口は動いても手は動かず人間なので、月例会の時など、なにもお手伝いせず、ただぼうっとしているだけのことが多かった点お許しいただきたいと思います。

三年間一応、内から眺めて感じたことを書いてみます。まず、連盟にはテニスクラブに所属している会員の方と、そうでない会員の方がおいでになるということです。クラブに所属している会員は、例えば月例会に来られなくても日曜なら朝からプレーすることが可能ですから、連盟主催の会に参加したいと考えるには何かより魅力的な内容を感じ取った場合であるはずです。しかし、主催する立場からすれば毎回斬新な趣向を凝らすことは必ずしも容易ではありません。したがって、クラブ所属の連盟会員に参加していただくためにはどのようにしたらよいかというのが第一の問題点であるように思います。

二番目は、会員構成がすでに自適されている方とまだ現職におられる方からなっていることです。このことについてはしかし、連盟発足当初から Week-day交歓会を設けていることで、流れとしては良い方向に向いているのではないかと思っております。今後は、市内だけでなく県内、あるいは県外に足を伸ばしていく可能性も Weekdayのメンバーの方々で道を開いていって頂けるのではないかと期待しております。

三番目の問題点は、会員相互のテニスの技量にかなり差のあることです。技量別大会を設けたり、月例会でもある程度グループ分けをして参加して頂いてきたわけですが、やはりいくつか問題点はあるようです。初心者の方を大事にすることが先ず必要と考えられますので、クリニックを月例会等で取り入

れてこれに対処しているわけですが、その他に何かこうやったらというアイデアがありましたらぜひ皆様から出して頂きたいと思います。一方、上級クラスの方々は逆の不満もおありになるだろうと思います。年に一回位は県のランキングプレイヤーに声を掛けて上位者のリーグ戦等を行ってもよいのではないでしょうか。実力はありながら公式戦には参加されない方々がかなり多数おられるようなので、それらの方々が一堂に会する機会が作れたら、壮年クラスのレベルも今より上がるような気がいたしますが如何でしょうか。

少し、生意気な話をいたしました。最後に、最近経験した珍しいプレーを御紹介して終わらせて頂きます。私の打球が相手コートにバウンドしてまた私のコートに入ってきました。ここまではよくあることで、この場合はそのボールが私のコートに着地する以前に相手プレイヤーがネットに触れずにラケットでボールに触れれば相手側が返球したことになります。これは皆様御承知の所です。一旦、私のコートに戻ったボールはそのまま私側のネットに向かって跳んでいき、ネットに巻き付いてさらにネットに弾き返され、今度は相手側のコート内に向かってふわっと上がっていきました。それが前進してきた相手の目の前だったものですから相手は得たりとボレーでこれを決めました。以上が瞬時に連続して起きたわけです。この時、たまたまジャッジがついていて、その人は相手方のナットアップ、すなわち私のポイントと宣言しました。これについて正解は如何に、会報の名解説で知られる山内さんに解答をお願いしたいと思いますが如何でしょうか。事態をお解り頂けたでしょうか。いろんな事が起こるものですね。今後も連盟のお世話になる積もりですのでよろしくお願いいたします。

健康福祉祭に参加して

副委員長　上　山　　弘

高齢化社会という言葉には「幸せ」という感じよりも、いさゝか厄介なこの社会問題に対処するため、国民に経済的物理的な負担増加の覚悟を促しているような響きがあります。事実、高齢者を支えるに必要なお金は当分の間増加することでしょう。年金支給年齢の引き上げ、掛金増額、医療費負担増等々、わが国では何百億ドルもの貿易黒字が続いているのに、幸せに逆行するような厳しい生活が待ち受けているのでしょうか。現在でも高齢者の生活環境が恵まれているとは思われないのに、高齢者の割合が増えるから経費を切りつめるというのでは、無策に過ぎると思いますし、寂しい気持ちもします。最近では、「老害」という言葉さえ若干の憎悪を込めてさゝやかれています。

長生きしても余り楽しみが期待できないようなこの世の中でも、人は様々に生き甲斐を見い出して毎日の生活を積み上げ、人生マラソンを走り続けているのですから、優しい気持ちで励ましの声を掛け合いたいものです。私達は健康にも恵まれ、老若男女多くの友人とテニスを楽しんでいますが、これがどんなに幸せなことであるかをしみじみ思わずにはおられません。もちろんテニスだけが生き甲斐という訳ではありませんが、テニスを通じて交流の輪を広げ、地域社会に幾分なりとも潤いと楽しみとをもたらすことが出来ればという念願から、宮城県壮年テニス連盟は三年前にスタートしました。発足後も多数の方々が趣旨にご賛同になり会員数はほゞ倍増し、連盟の活動内容も次第に充実してきたように思います。その陰に、熱心な特に若手の世話人の献身的な奉仕があったことも見逃せません。

宮城県のこのような組織が他県にも生まれゝば、相互に旅行の楽しみも加味した親睦試合などができるのではないかと思うこともありました。このような時、厚生省が同省創設５０周年を記念して企画されたのが全国健康福祉祭で、その第１回大会ひょうご大会は去る１０月３０日から１１月２日まで、神戸市ほか兵庫県各地で開催され、私もテニスの宮城県選手の一人として参加する機会を得ました。テニスの腕前を評価されてというよりも、壮年テニス連盟の運営委員をしてきましたので、その立場からこの大会がどういうものなのか、他の県ではどのような姿勢でこの大会に臨んでいるのか、この機会に特に東北地区近県とのテニス交流を深める糸口が見つかるかどうか、また、他の競技種目の雰囲気など、いろいろ視てくるようにとの含みがあってのことゝ思います。先日、高橋龍夫選手が５０才クラスの全日本チャンピオンになられたので、１０年後は変わる筈ですが、今の６０才以上の宮城県のレベルがどの程度のものか薄々想像もつきますし、まして一週間前に、予選リーグの組合わせが有名選手を擁する川崎市と、かって私共が都市対抗戦で惨敗を喫したことのある愛知県と一緒と聞かされては、出発前から気重い感を拭い払うことがでず、私は秘かに勝敗よりも、なるべく多くの人と言葉を交わし、同じ様

なテニス愛好者がどういうテニスをし、どんな生きざまをしているかを学ぼうと考えて出かけました。戦績は覚悟したよりもっと悪い成績で予選落ちとなりましたが、翌日の敗者同志の交流試合に臨んでかえって得るところが多かったように思いました。

先ず第一に驚いたことは、テニス競技の参加者の年齢が意外に高いことです。選手の年齢分布の最多数は、男子は65才、女子63才でしたが、男子の場合70才以上が29%を占めており、これらの方が皆私達と同等またははるかに素晴らしい元気なプレーをしていました。名古屋市ﾁｰﾑは、80才の男子、78才の女子選手を擁し、最高の平均年齢(70才)ﾁｰﾑ として表彰(鶴亀賞)されました。また、岡山対埼玉の決勝戦では、65才級に埼玉は73才、岡山は77才の選手を配しての第１試合が印象に残ります。そのほか交流試合の時、隣のコートで試合をしていた山形の70、72才ペアが、山梨の65、66才ペアを相手に１時間余りの熱戦の末ﾀｲﾌﾞﾚｰｸで勝たれたようでしたが、これには畏敬の念すら覚えました。普段、私たちは年の割には元気な方だと自負していましたが、体力、気力、技量において遠く及ばないことを悟り、これから70才、80才になっても通用するテニスの技と体力を身につけなければと痛感した次第です。

ポートアイランドホールの総合開会式に集まった大勢の選手、同じ宿に泊まり合わせた他県の選手団、乗り物や街路で出会う他種目の選手達、どれを見ても溌剌とした熱気が感じられ、老人と呼ぶのは余りにも不適当な方々でした。総合開会式における主催者のご挨拶の中で、長寿社会とは第二の人生ともいえる老後期間の延長が特徴であり、この期間をいかに健康に充実して送ることができるか、いかに健やかに老いるか、個人の人生においても意義深い大切な時代だと話されました。そして一人一人が自覚と責任をもって自分の健康づくりに取り組み、多数の高齢者が健康で積極的に社会参加することによって活力ある長寿社会を維持することが可能なのだと申されました。それまで自分の老後を漠然としか意識していなかった私にとってこの開会式参加は貴重な体験でした。あまりでしゃばって老害を撒き散らすことは控えつゝも、時間的に余裕を得たこれからは、役に立つときは喜んで積極的に社会奉仕に加わりたいと思います。

「全国健康福祉祭」は長寿社会にふさわしい健康・福祉ｼｽﾃﾑづくりを目標に、イベントを通じて国民意識の啓発を期待し、今後毎年、所を変えて開催されるそうです。私はこの第１回大会に、県テニス協会が選手選考会を開く時間的余裕がないという理由で、同協会の指名推薦により参加することになりましたが、来年以降の選手選考についてお願いしたいことがあります。健康福祉祭は参加することに大きな意義があると思います。それは必ずしも全国大会に参加しなくてもよいのです。全国健康福祉祭と同じ趣旨に基づいて、県でも宮城県健康福祉祭を開くことは意義深いことだと思います。県の大会に大勢の元気な「老輩」が参加して気勢を上げ、その中から適当な方法で代表を決めればよいのではないでしょうか。県庁の担当部課は早急にスポーツ交流大会を含む宮城県健康福祉祭の実現に努力して頂きたいと思います。県テニス協会もこの趣旨を踏まえてご協力されることは有難いことですが、もし「選手の選考」という目的だけで競技会の世話をするということであれば、これは認識違いと申さねばなりますまい。壮年テニス連盟はテニスを通して老若男女の交流の輪を地域社会に広げようと結成されたもので、今のところ一部有志の方だけの集まりでもあり、また、選手を選考するということは結成の趣旨になじみません。もし県から協力の要請があっても、今年の夏のミックスダブルス大会で、総員の力を結集して一面の水溜りをタオルで絞りとったあの時の気持ちを思い起こし、volunteer として健康福祉祭開催のお手伝いをするという姿勢こそ壮年テニス連盟がその本領を発揮する道ではないでしょうか。

壮年テニス連盟発足から３年間、私は神吉委員長の補佐役として運営委員を務めさせて頂き、貴重な体験を得たことを心から感謝しております。運営委員は毎年改選するが、再任も３年限りという規定があります。結成準備委員会でこの規定を協議したときは、万一個性的な委員が現れて連盟の軌道が少し曲がっても修正が難しくならないようにと、どちらかといえば消極的な理由からでした。しかし、いま考えてみて、この規定は幸いにも非常に積極的な意味があったと思います。初めにも述べましたが、人生マラソンにおいて豊かな知識と経験を積み重ねた高齢者が、自分達のためばかりでなく、すべてのランナーに励ましの声を掛け、地域社会に明るく健康で楽しいさゝやかな幸せと夢とを育てるべく積極的に参画することは、活力ある高齢化社会の一つの要件ではないかと思います。その意味で、現役の厳しい仕事から解放された年輩の方々が、順番に交代で連盟の運営に当たることは非常に意義深いと思いま

す。いつまでも働き盛りの若い現役の人達の世話に甘えないで、むしろ休日には彼らのリクレエーションのため一役買うといった気持ちで対応してもよいのではないでしょうか。年齢に関係なく、夢と理想を失ったとき人は老いると言われています。

ニュース

高橋龍夫選手 全日本ベテランに優勝

日本テニス協会主催、昭和63年度第50回全日本ベテランテニス選手権大会は、9月19日から25日まで成城グリーンプラザで開催されたが、当連盟幹事の高橋龍夫選手（萩庭会）は50～54才の部で見事優勝の栄冠を獲得しました。高橋選手の戦績は次の通りです。

関西

一回戦　高橋 2(6-1 6-3　　)0 井上(ｽﾎﾟｰﾂﾎﾞｯｸｽ)
準々決　高橋 2(6-1 6-1　　)0 石津(岡山LT) 中国
準決勝　高橋 2(7-6 3-6 6-4)1 藤原(ﾔｵｽﾎﾟｰﾂ)関西
決　勝　高橋 2(6-4 2-1 Ret)0 石黒修(田園ｸ)関東

この機会にこの大会の構成、出場資格等について高橋選手に尋ねてみました。５才刻みに４５才以上のベテラン選手をクラス分けし、各クラスのチャンピオンを争う。但し、厳しい関門を経て初めて出場権を手にすることができる。男子50才以上シングルスの場合、次の諸公式大会で優勝または準優勝した者につて、次に掲げる順に１６名が選出される。

A-1 前年度全日本選手権大会の準決勝進出者　４名
B　次の大会の優勝者
　-2 前年度全日本ローン選手権大会　１名
　-3 関東、関西各選手権大会　２名
　-4 東京、大阪毎日選手権大会　２名
　-5 東海、九州選手権大会　２名
　-6 北海道、東北、北信越、中国、四国選手権大会５名
C　次の大会の準優勝者
　-7 前年度の全日本ローン選手権大会　１名
　-8 関東、関西選手権大会　２名
　-9 ･････････ 以下略
D　次の大会の準決勝進出者
　　･････････ 省略

以上の順位に基づき、且つ過去の公式戦の成績を参考に１６名の出場者が選抜される。従って、関東関西の実力者でも、「全日本」への出場権を得ていないプレーヤーは「切符」獲得のため、他の地域の選手権大会に出てその優勝を狙うことが通例のようで、今年度の北海道、北信越の優勝者は関東の選手であったそうです。何とも、「全日本」に出るということだけでも大変なことですね。ついでに、高橋選手に優勝の感想を伺ってみました。（文責上山）

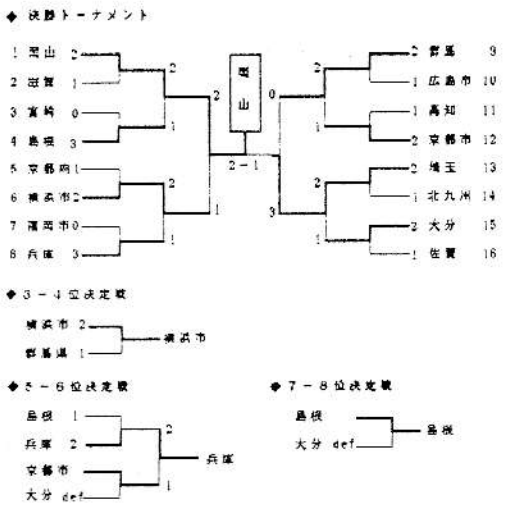
「元デ杯選手の加茂さんや石黒さんと一緒にプレーできることが念願でしたが、このような一流選手に勝てるとは思っても見ませんでした。まして全日本選手権のチャンピオンになれるなど、夢の中でも不可能なことでした。自分自身まだ信じられません。日本テニス協会の役員の方々、関東関西の選手諸氏から多大のお誉めやお祝の言葉いをいただき、心にしみて有難く思いました。今後も身体に注意して、勝敗は別としても、チャンピオンとして誇りのもてるプレーを続けたいと思っています。」

第１回全国健康福祉祭 ひょうご大会開幕

厚生省、兵庫県、神戸市、全国健康福祉祭推進協議会主催の標記の大会は、「いのち輝く長寿社会」をテーマに各種のスポーツ交流大会および関連イベントを織り込み、10月30日から11月２日まで秋晴れの兵庫県各地で開催された。テニス競技は神戸総合運動公園テニスコートに４８の県および制令都市の代表チームが参加、和やかな雰囲気のうちにも熱戦が展開された。試合は、女子60才以上、男子60才以上、65才以上の各ダブルス１組づつの団体戦で、先ず３チームづつ１６ブロックに分かれての予選リーグが行われ、各ブロック１位のみが決勝トーナメントに進むという方式で行われた。宮城県チームは第６ブロックで強豪横浜市および愛知県と組み、善戦も空しく何れにも３－０で敗れ予選落ちとなった。敗者同志の親善交流試合に臨んだ宮城県は、先ず、岩手県に３－０、次いで、長崎県にも２－１で勝ち、出場チーム中最低ではないことを証明することができた。なお、宮城県チームの選手選考は期日の関係で宮城県テニス協会が行い、次の選手が選ばれた。

監督　　森谷勇一郎
選手　女子60才　菊田絢子、奥井紀美子、庄司勝子
　　男子60才　浅野正次、小野泰祐
　　65才　新藤英雄、川上秀之、上山弘

決勝トーナメントは下記の通りで、岡山県対埼玉県の間で決勝が争われ、息詰まる熱戦の末、２－１で岡山が競り勝ち初優勝を飾った。両者とも、さすがに各年齢層粒ぞろいの好チームであった。



（選手選考にあたり、60才以上の会員に委員長から協力依頼のお手紙を差し上げましたが、結局、県テニス協会の判断で選手が推薦されました。誤解を招いた恐れもありますが悪しからずご了承下さい。）

来年は新オムニコートで

ご存じですか？　来年(昭和64年)4月からは宮城県（県営、市営）のテニスコート事情が変わります。昭和65年のインターハイテニス大会を仙台市泉区で開催するために、現在、泉体育館北側にある4面のハードコートを改め、新しくオムニコート（人工芝に細かい砂を入れたもの）１６面が新設されることになっています。また、インターハイの練習用コートとして、現在の宮城野原コート１０面も全て同じオムニコートに改装され、今までいろいろと評判の悪かったものが夢のようなコートに変わることになっています。

インターハイテニス大会を旧泉市で開催することは早くから決っていたものゝ、その場所とコートについては関係者の間でいろいろと検討されてきた結果、最終的に、軟式庭球用としても適当なオムニコートを新設することになったと聞いております。私たちテニス愛好者にとっては、あの１９８５年のユニバーシアード大会（国際学生スポーツ大会）で好評だった神戸市総合運動公園のコート、そうです今年の第１回"ねんりんピック"大会でも使用されたオムニコートが、身近な所に２６面も出来ることは嬉しい限りです。そこで、来年は壮年テニス連盟の年間行事の一部を泉区のオムニコートで是非開催したいものと胸躍らせているところです。泉区に在住の会員のご協力を得て、来年は新しいオムニコートで精一杯楽しんでみようではありませんか。（文責山内）

◇ 競技会記録 ◇

第３回混合ダブルス大会

8月28日(日)　青葉山公園庭球場

人海作戦で水溜り排除　予定の全試合強行

天候不順で開催が危ぶまれた今年度のミックスダブルス大会ではあったが、今夏としてはまずまずの天候に恵まれ(?)、合計２４ペア参加のもとに開催された。しかし、例のごとく、第17-19ｺｰﾄのｺﾝﾃﾞｨｼｮﾝが不良のため、20-22ｺｰﾄだけを使用し、９時から予備ﾘｰｸﾞが４ｹﾞｰﾑ先取で開始された。一時は陽のさすこともあったが、ついに昼前から本降りとなり、見る見るうちにｺｰﾄの至るところに大きな水溜りが出来てしまった。もはやこれまでかと思われたが、熱心な参加者は杉の木陰に傘をさし、雨の上がるのを願いながらとりあえず弁当をひろげた。熱意が天に通じたのか１時間ほどで雨は止んだものゝ、ｺｰﾄの水溜りは簡単に消えそうもなく、半ば諦めﾑｰﾄﾞが漂った。そのうち熱心な２人、３人がｺｰﾄに出てきて、いさゝかやけ気味に水をスコップでかき出したり、古タオルで泥水の絞り出しが始まった。初めのうちは、こんなことでは到底見込みはあるまいと冷やかに眺めていた傍観者も先駆者の熱意に動かされ、ついに全員が泥水の絞り出し作戦に参加する展開となった。中にはかなり上等のまだ充分利用価値のあるｽﾎﾟｰﾂﾀｵﾙを投入した方もいたようでした。この大作戦は見事に功を奏し、２時間程の中断で予備ﾘｰｸﾞの残りおよび順位決定戦を続行することができた。ただし、朝からｺｰﾄ数が予定の半分しか使えないところに２時間のロスがあったので、競技担当の委員からは、順位戦も４ｹﾞｰﾑ先取ﾏｯﾁとし、さらに試合前の練習は一切禁止(ｻｰﾋﾞｽも駄目）という厳しいお達しのもとで強行された。しかしこれもやむを得ない処置と理解（観念）して、今年のミックスダブルス大会は熱戦の展開というよりも、この一日を最後までテニスで楽しもうという壮年テニス連盟の連帯意識を強くしてその歴史的幕は閉じられた。

試合は、参加者２４ペアを概ね技量別に８ペアづつＡ，Ｂ，Ｃの３グループに分け、各グループはさらに抽選で４ペアづつ２組に分けて予備ﾘｰｸﾞ戦を行い、各組上位の２ペアが優勝決定戦へ、下位の２ペアは５位以下の順位決定戦へ進むという方式で行われた。各グループの出場者および上位の結果は次の通りで

した。

A グループ

近　晴雄・中山八重子　　武田紀夫・武田久美子
井沢秀雄・井沢三幸　　和田武士・和田美代子
小野泰祐・森　廸子　　青木興一・石川トヨ子
上山　弘・渋谷陽子　　酒井秀章・酒井倭子
順位　1 酒井・酒井　2 上山・渋谷　3 近・中山

B グループ

伊勢重男・岡崎幸子　　新藤英雄・坂爪ミヤ
中村孝史・中村経子　　佐々木満博・池田章子
川上秀之・石亀聡美　　倉橋俊之・早坂幸子
金子利幸・河野浩子　　大賀延行・大賀やす子
順位　1 佐々木・池田　2 金子・河野
3 伊勢・岡崎；川上・石亀

C グループ

星　猛夫・菊田絢子　　花渕武雄・庄子勝子
岩月賢一・加藤悦子　　渡辺三郎・和泉寛子
伊藤一利・伊藤久子　　佐藤幸紀・佐藤耀子
鈴木捷彦・奥井紀美子　　谷岡勝弘・谷岡　栄
順位　1 佐藤・佐藤　2 鈴木・奥井
3 谷岡・谷岡；伊藤・伊藤

第２回 対女子連定期戦

昨年より親睦の色合いを深めて創始された対女子連定期対抗戦の第２回大会は９月１５日開催予定でしたが、天候不良のため今年は中止のやむなきに至りました。壮年連盟側は申し合わせの３６名を越える４８名の参加希望者があり、試合には１２名の補欠選手を交えて楽勝する作戦でしたが残念でした。

対いわきベテランＴＣ親善試合

いわき側のご希望により、今年は宮城蔵王ｻﾝﾙｰﾄﾎﾃﾙに合宿し、９月２４日(土)懇親会、２５日(日)同ﾎﾃﾙｺｰﾄで親善試合を行う予定でしたが、両日とも小止みなく降り続く天を眺めるだけに終わりました。いわきからは女性７人を含む２０人がおいでになりましたが、何ともお気の毒なことになりました。遠刈田のこけし館、ミンク展示館などをご覧の後、午前中に皆さん帰途につかれました。当方からは宿泊１３人、当日１２人が参加する予定でした。

昭和６３年度技量別ダブルス大会

１０月１６日（日）　青葉山公園庭球場

好天に恵まれ紅葉の彩る青葉山公園に２９組が参加して熱戦が展開された。参加希望クラスを基に若干の調整を施してクラス分けを行い、Ａ９組、Ｂ１２組、Ｃ８組とし、各クラス抽選で組分けをして予選リーグを行ない、更に順位決定戦を行う方式がとられた。戦績は次の通り。

★Ａクラス　○予選リーグ

１組　１谷岡勝弘・伊勢重男　２菊地新喜・長谷川信夫
３近　晴雄・金子利幸
２組　１中村克宏・中島　佑　２菊地　格・川口温弘
３和田武士・竹内錬一
３組　１遠藤一博・志間弘治　２川上秀之・上山　弘
３酒井秀章・小田島政勝

○順位決定リーグ（各組１、２、３位同志のリーグ）

優勝 中村・中島　２位 谷岡・伊勢　３位 遠藤・志間
以下 川上・上山　川口・菊地　菊地・長谷川 の順

★Ｂクラス　○予選リーグ

１組　１井沢秀雄・伊藤秀雄　２池田　長・池田章子
３多久堯夫・館内則之
２組　１渋谷陽子・酒井倭子　２竹内道子・和田美代子
３平井正光・平井郁子
３組　１小林卓也・加藤正一郎　２守田 忠・室賀 創
３早川博文・神山智明
４組　１斉藤昭男・五島健雄　２佐々木満博・森 迪子
３新藤英雄・星　猛夫

○順位決定トーナメント（各組同位者によるﾄｰﾅﾒﾝﾄ）

優勝 斉藤・五島　２位 渋谷・酒井　３位 小林・加藤
以下 井沢・伊藤　佐々木・森　池田・池田 の順

★Ｃクラス　○予選リーグ

１組　１吉沢幸雄・剣持勝衛　２花渕武雄・渡辺三郎
３菊田絢子・庄司勝子　４後藤栄子・奥井紀美子
２組　１高橋信次・高橋哲子　２井沢三幸・岡崎幸子
３坂爪ミヤ・加藤悦子　４谷岡　栄・笹野正二

○順位決定戦（各組同位者の対戦）

優勝 吉沢・剣持　２位 高橋・高橋　３位 花渕・渡辺
以下 井沢・岡崎　坂爪・加藤　菊田・庄司 の順

各クラスの優勝ペアにそれぞれ優勝杯が贈られた。

第３回月例会

７月３１日（日）　青葉山公園庭球場

参加者　午前 ３０名　午後 ３１名

第４回月例会

１１月３日（祝）　青葉山公園庭球場

参加者　午前 ３６名　午後 ３５名

Ｗｅｅｋｄａｙ交歓会

第３回　８月１０日（水）青葉山公園　２９名参加
第４回　９月　８日（木）　〃　１９名参加

第５回１０月１９日（水）東北電力総合研究所の
　ご好意により、同所中山コートで　２９名参加
第６回１１月１６日（水）青葉山公園　２６名参加

◇ 諸 報 告 ◇

第５回委員総会

第５回(昭和63年度後期)委員総会は12月３日(土)午後３時半から東北大学科学計測研究所中会議室で開催されました。会議の概要をご報告します。

◆出席者　神吉委員長

(クラブ等グループ代表委員)

飯野　雅（萩庭会）　　井沢秀雄（ｱｯﾌﾟﾙTC）
石亀希男（東北大科研）　岡崎幸子（東北大農）
長田輝夫（東北大工）　　川上秀之（丸田沢TC）
酒井秀章（南ｲﾝﾃｰTC）　　渋谷陽子（南ｲﾝﾀｰTC）
山本　忠（東北電中山ｸ）

（運営委員）井沢三幸、伊藤一利、上山　弘、川口温弘、菅野志津子、新藤英雄、中村克宏、矢田慶治

（幹事）大賀延行、高橋龍夫、山内　宏

◆報告および協議事項

１．委員長は挨拶において、委員長及び上山、中村の運営委員が連続３年務め規約により今期で退くにあたり、会員の皆様のご協力に感謝された。

２．庶務（新藤委員）、会計（上山委員）、競技会関係（中村委員）、広報（矢田委員）について各々報告があった。

今年度の会計見通しの報告において、実際に領収した会費及び競技会参加費の合計と実際の支出総額はほぼ均衡しているが、未収納会費を含む形式上の繰越金は１４万円以上に増えるものの、その内の約７万円が徴収の見込みの薄い未納会費であり、事務処理上の支障が出始めたばかりでなく、経費の無駄使いが無視できないとの指摘があった。

３．その他の報告

(A)萩庭会飯野委員から、高橋龍夫氏が全日本ベテランテニス選手権大会５０才の部で優勝したとの報告があった。

(B)川上委員から、第１回全国健康福祉祭ひょうご大会に参加した宮城県ﾁｰﾑの戦績及び大会の概況について報告があった。

４．昭和６４年度運営委員の選出

協議の結果、神吉、上山、中村の各氏を除く今年度運営委員に加え、新たに小野泰祐、瀬野尾秩、松山真水、村上和夫の４氏を満場一致で選出した。

５．競技会のやり方について

自由に意見を交換し以下の共通認識を得た。

(A) 年齢別大会は、もし県の老人福祉課で何等かの企画が立てられた場合、それとの調和を計る必要もあり、来年の課題であろう。

(B) 対女子連定期戦は、女子連側の都合が９月は良くない模様だから、早いうちに時期の調整をする必要がある。

(C) Weekday交歓会は、第２水または木曜に限らなくてよい。クラブ対抗などクラブ間の交流試合なども面白いのではないか。

(D) 泊まりがけの県外との親善試合は、天候に恵まれないと悲惨なことになるので今後の実施については慎重に検討する必要がある。山形や盛岡など日帰りのできる地域との交流試合なら天候を確認してから出かけることもできるし、参加者も増えるのではないか。

６．６２年度以来の会費未納者の取扱について

協議の結果、継続する意志のある会員については１２月末までにクラブ代表委員から連絡をいただくことにし、それ以外の未納者には１月以降諸通知を送らないことに決定した。

◇ お 知 ら せ ◇

革製名札を希望者に

（事務局から）今年度の三大競技会の優勝者には、優勝杯レプリカに替わる記念品として革製のバッグ名札（直径６cm、重さ20g）を差し上げました。図からもお解りのように、表側には当連盟の英語名とマーク（金色）が入り、"WINNER 1988" と刻まれており、「シックな出来上りである」との好評をいただいております。

このバッグ名札は当連盟のオリジナルグッズで、テニスバッグや旅行カバンに取り付けて用いるように出来ております。ご希望の方は、事務局宛に代金（2000円）を添えてお申し込み下さい。裏面にお名前を彫ったうえでお送り致します。なお、一般用の名札には "WINNER" の文字が入っておりません。

会員異動

◇前号会報発行後、次の方々が加盟されました。（加盟順、敬称略）

氏　　名

庄司則克
庄司勝子
星　猛夫
館内則之
池田　長
池田章子
武田紀夫
武田久美子
奥井紀美子
森　廸子
和泉寛子
後藤栄子
剣持勝衛
剣持啓子
中島　佑

◆次の方々から退会もしくは休会のお申し出がありました。

奥山健治（健康上）　佐藤友美（転勤）　小野寺晃（転勤）　河野郁子（都合）　大島茂彦・綱子（休会）

以上の結果、会員数は 252名 （男子168名 女子84名、106名が家族会員）となりました。

新年の室内ダブルスを楽しむ会

1月16日（月）、2月11日（土）　何れも休日の2回を予定しております。詳しくは別にご案内致しますのでご期待下さい。

編集後記

▽対女子連定期戦や、いわきV.T.C.との親善試合が済んだところで、その模様などを中心に会報6号、年末に7号をと考えていましたが、本当に雨の多い1年でした。

▽字が小さすぎるとのご批判が沢山ありましたが、今号では一部を除き字の大きさを統一しました。正直いってこの方が楽なんです、編集は。

▽次号から編集担当者が代わります。会員の皆様、ご支援有難うございました。これからも今まで以上に、所感、ご意見、紹介や報告などの原稿を自由にお寄せ下さり、ご協力下さるようお願い致します。

（HK生）

編集発行　　宮城県壮年テニス連盟運営委員会